

星宮小学校 市民説明会 記録

日	時	令和元年 7 月 28 日（日） 9:00～11:00	場 所	星宮小学校体育館
(内容)				
発言者	発言内容			
市職員	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶（総合政策部長、教育次長）</p> <p>3. 熊谷市の公共施設再編方針案について（資料 2～4）</p> <p>【資料 2】</p> <p>それでは、お手元の資料 2 の 1 ページをご覧ください。「1 の再編方針案の基本的な考え方」でございますが、(1) これまで策定した「基本方針」や「基本計画」に基づき、老朽化した施設を減らす代わりに、市民ニーズに合致した施設の新設・集約を実施し、同時に公共交通の充実と、民間施設の活用も推進することで、熊谷市の将来を見据えたメリハリのある再編方針案とすることを目指しました。</p> <p>(2) 「市民の考え方」の反映につきましては、市民アンケートや、市民説明会、市民ワークショップでのご意見を踏まえて、この案を作成しました。</p> <p>(3) 「建物」は減らしても「機能」を移転・存続させ、市民サービスの維持と利用者皆様の活動の場を確保いたします。</p> <p>(4) 会議室などの「専用部分」をできるだけ存続させ、事務室、廊下などの「共用部分」を圧縮し、施設複合化のメリットを生かします。</p> <p>(5) 管理運営費のかかる「小規模施設」を廃止・集約し、新しい施設へ統合・複合化をすることで、効率的な運営を目指します。</p> <p>(6) 修繕費のかかる「老朽施設」を除却し、更新等を推進することで、維持費を節減するとともに、新しい施設によるサービスを提供してまいります。</p> <p>(7) 大規模修繕を実施していない施設の場合、総合的に判断して、高額な大規模修繕工事を見送り、新たな施設への更新を進める方が有効な場合には、更新時期の前倒しも検討します。</p> <p>(8) 「耐震化」を早急に達成することで、利用者皆様の安心・安全の確保を図ります。</p> <p>続きまして、2 ページの中ほどをご覧ください。「3 施設分野別の考え方及び主要事業」では、ハコモノ施設を 17 の分野に分け、施設分野ごとに、主要施設の今後の方向性を掲げています。検討時に考慮した事項としましては、それぞれの施設の耐用年限や老朽化の状況、大規模修繕等の実施履歴、耐震化</p>			

の状況、利用状況、コスト、民間も含めた同種・類似の施設の市内における分布状況、集約・複合化する施設間の調整、集約・複合化後の利用者の利用機会・選択肢の確保の可能性等を考慮しつつ取りまとめたものです。

それでは、各施設分野毎に、順に説明します。まず、(1)「学校施設」でございますが、3ページにある表のとおり、統廃合による学校規模の適正化の案につきましては、概ね第3期(2035～44)までを記載しております。表は、児童生徒数の現状と今後の推計を基に取りまとめた、「たたき台」であり、決定済みの計画ではございません。詳細については、次第の4(1)学校規模適正化について、(2)給食センターについての中で説明をさせていただきます。

次に、4ページ・5ページをご覧ください。「(2)市民文化施設」につきましては、5ページの表のとおり、各エリア・地域の様々な貸館施設等を集約し、エリアごとに(仮称)生涯活動センターを新たに整備することで、拠点的な機能を中核に、多様な機能を整え、幅広い世代が集える、市民活動や社会教育の拠点としていくことを想定しております。

なお、表に記載された予定地・候補地につきましては、確定したものではございません。施設の種類・機能等によって、開発や建築の条件・制約が課せられますので、施設内容を具体的に検討する中で、候補地が決まることをご了解いただきたいと思います。

次に、6ページ・7ページをご覧ください。(仮称)地域拠点施設整備事業は、広域的に、施設の統合・集約を進める中で、地域における必要性を考慮し、現在の地域公民館等の貸館機能を、地域の小学校等に移転し、体育館とともに、各地域への存続を図るものでございます。公民館機能等を引き継ぐ生涯活動センターとともに、役割を分担し、現在の施設機能の受け皿とすることを想定しています。

なお、各地域貸館施設の供用開始予定年度は、その前身となる公民館等の存続期間等により違ってきます。また、老朽化の進んだ公民館の機能移転を想定するとともに、利用実態を踏まえた地域コミュニティセンター等の地元譲渡も想定しています。

7ページの(3)子育て支援施設でございますが、保育所については、現在の保育需要が高い中で、老朽化した保育所の更新を、統合により実施しようとするものです。また、既存の児童館に替えて、雨天時でも子供を元気に遊ばせることのできる(仮称)こどもセンターの整備を想定しています。総合保育所とともに、(石原にある)蚕業試験場跡地ひろばに、(仮称)総合子育て支援施設としての整備を想定しております。

8ページの(4)保健福祉施設でございますが、保健センター等の保健施設に

ては、

老朽化した母子健康センターの建替えと成人保健と母子保健の統合による保健・健康指導サービスの向上、また、業務の効率化の視点から、3つの保健施設を妻沼保健センターへ機能集約することを想定しております。

また、老朽化が進んでおります「休日・夜間 急患 診療所」につきましても、蚕業試験場跡地ひろばへ整備予定の「(仮称) 総合子育て支援施設」への併設を想定しております。これにより、保育所・児童遊戯施設・急患診療所の併設による相乗効果が期待できます。

次に、(5) 庁舎等でございますが、本庁舎建替え時に、分庁舎方式を廃止し、本庁機能の集約による業務効率化を図る一方、必要に応じ、(仮称) 生涯活動センター内に、行政センター機能の受け皿となる出張所を設置することで、利便性を確保していく予定でございます。

(6) 消防施設 につきましては、老朽化・耐震性・災害時の機能維持等に課題のある大里分署と江南分署の機能を、南部エリア全体の消防力向上の視点から、吉岡地区周辺に移転集約することを想定しております。消防団車庫につきましては、近隣の消防署・分署や地域拠点への併設を検討することとします。

(7) ホール につきましては、適切な 規模・グレードの施設 1か所への集約を想定しています。将来的には、「さくらめいと」の更新時に、規模・機能・再配置場所等を検討したいと考えております。

9ページをご覧ください。(8) 図書館につきましては、人口分布等を踏まえ、再配置を検討することとし、将来的には、西部エリアにおける図書館整備も想定しております。

(9) 博物館的施設 につきましては、歴史・民俗、美術、埋蔵文化財のテーマ別の施設再編を検討することとしております。

(10) 水浴施設は、アクアピア、健康スポーツセンター、老人福祉センターなどでございますが、市民アンケートの結果や老人福祉センターの老朽化も踏まえ、全年齢層向けの 屋内型の 温水浴と冷水浴が 可能な施設を整備し、学校のプールの機能受入先とするとともに、子どもから高齢者まで、世代間の交流ができる施設とすることを想定しております。また、スーパー銭湯やスイミングクラブ等の民間施設の活用も想定してまいります。

(11) 公園・スポーツ施設でございますが、熊谷(さくら) 運動公園の屋外プールを、老朽化や利用日数を踏まえて廃止し、屋内プール「アクアピア」へと機能移転することを 想定しております。

更新時期を迎える市民体育館につきましては、「くまびあ」体育館への 機能移転も考慮しながら、市民体育館周辺の再整備を検討していきたいと考えてお

ります。

老朽化が進む 勤労者体育センターや妻沼運動公園体育館 を含む地域体育館につきましては、学校統廃合の進捗に伴う学校体育館からの転用による体育施設の増加を見込み、廃止又は更新を検討していくことを考えております。

10ページをご覧ください。(12) 産業施設につきましては、利用者・民間・地元等との協議・調整により 整理・再編いたします。可能なものは、民間譲渡を検討してまいります。

続きまして11ページをご覧ください。(13) 人権施設でございますが、春日文化センターや集会所は、耐震性や老朽化、利用者数を考慮しながら 存続の可否を検討してまいります。

(14) 環境施設につきましては、旧妻沼清掃センターを解体・除去し、その跡地を災害時のストックヤードとすることを想定しております。

(15) 防災・河川施設は、水防倉庫等、防災施設のため全て存続させます。

(16) 公共交通施設等では、本町駐車場は、運営改善方を検討しながら、当面存続の予定です。その他の駐車場・駐輪場も存続を想定しています。

12ページをご覧ください。(17) 葬斎施設につきましては、今後の利用傾向を見据えながら、設備の増設等を検討するとともに、指定管理者制度の導入も検討します。

以上が、施設分野別の方向性・考え方でございますが、個々の施設には、耐用年数、建物の状況等の違いがあり、集約する場所やタイミング、方法についても、複数の既存施設の調整が必要であり、開発・建築等に関する課題も残っております。

施設の再編については、本市の人口推計、今後の 各エリア・地域の状況の変化も踏まえまして、定期的に、必要があれば毎年度でも、個別施設計画を見直していく予定です。

続きまして「4の市民への説明や公表方法」ですが、6月末から先週まで開催したエリア別の市民説明会や地域説明会を通して伺った御意見を参考に、今後の市の施設のあるべき姿はどのようなものであるか、皆様と共に考えてまいります。資料2：公共施設全体の方向性の説明は以上でございます。

【資料3】

続きまして、資料3の施設配置図について説明します。こちらの資料は、熊谷市全体を5つのエリア毎に色分けし、公共施設の再配置案等を図示したものになっております。

本日は、配置図の中で「水色」で着色しております、東部エリアのうち「星

宮小学校地区」に関係する施設を 中心に説明してまいります。1枚めくっていただき、右上に「図1」とあるものをご覧ください。

図1につきましては、「小中学校」の再配置となっておりますが、概ね第3期（2035～2044年）までの計画等を示しております。

小学校につきましては、星宮小学校と成田小学校の統合を、2023年に、成田小の位置で想定しております。成田小の位置とする理由は、成田小の方が児童数が多く、敷地面積が広いことが挙げられます。

次に、図2をご覧ください。公民館等の「市民文化施設」では、エリアごとに新設する（仮称）東部生涯活動センターを、現在の老人福祉センター上之荘の跡地で第2期の整備を想定しています。

また、各地域の公民館は、生涯活動センターが整備されるまでは、現在の建物の耐用年数等を踏まえながら存続させ、その後、地域貸館施設として、小学校の校舎や敷地内に設置・整備を想定しています。

続きまして、図6-1の「水浴施設」をご覧ください。プールや老人福祉センターを示すものですが、2027年に老人福祉センター上之荘の廃止を想定しているほか、学校のプールは、校外方式への移行で順次廃止します。

上之荘の水浴施設機能や学校のプール機能は、民間施設を受け皿とすることも想定しています。

続きまして、図6-2の「屋内スポーツ施設」は、統合・移転した学校体育館を地域体育館として活用していくことを想定しています。

続きまして、図7は「産業施設」ですが、こちらのエリアでは、（仮称）道の駅「くまがや」の整備を予定しており、南部エリアの大里農産物直売所や大里農産物加工施設を、道の駅への集約することも想定しております。

以上が、資料3の説明です。

【資料4】

続きまして、資料4の各公共施設のフローチャートについて説明します。こちらの資料は、小学校区、または統廃合を想定している小学校区のグループごとに、各施設の修繕・統合・移転・廃止等を 時系列で示したものです。

本日は、「星宮小学校区」に関連する箇所を説明いたします。資料の8ページをご覧ください。フローチャートの一番左に丸数字のついた「建物名・施設名」を掲載しておりますので、概ね上から順に説明してまいります。

まず、「①成田小学校」、「⑤星宮小学校」でございますが、2023年に、成田小での統合を想定しております。統合に必要な「成田小校舎」の改修等をおこなってまいります。統合後の、「星宮小体育館」につきましては、「地域体育

市職員	<p>館」としての利用を想定しております。「学校プール」については、全市的に他の小中学校でも同様な考え方ですが、校外方式の水泳授業導入後、廃止・除却を想定しています。</p> <p>「⑦星宮公民館」は、第2期後半に、公民館機能を「⑧（仮称）東部生涯活動センター」に移転しますが、地域の活動の拠点として「⑥星宮会館」を星宮小体育館へ併設することを想定しております。</p> <p>「⑧（仮称）東部生涯活動センター」は、市内の各エリアごとに公民館機能等を集約し、コミュニティセンターや市民活動支援センターとしても利用することのできる「生涯学習や市民交流を図るための施設」として、新規整備するものです。現在のところ、老人福祉センター上之荘跡地への整備を想定しております。</p> <p>「⑩熊谷東中」は、存続を想定しています。資料4の説明は、以上です。</p> <p>4. 学校規模適正化について</p> <p>少子化により、全国的に児童生徒数が減少しておりますが、本市でも、ほぼ全ての学校において児童生徒数が減少し、学校の小規模化が進行しており、この傾向は、今後も続くことが見込まれています。</p> <p>左下に「市内小中学校の児童生徒数の推移と将来推計」を載せていますが、小学校で申し上げますと、一番左の1982年度が19,018人で、ここをピークに減少を続けています。2019年度は9,334人で、ピークと比較しますと、約51%減少しています。また、2025年度は、今年度と比較すると、約13%減少し、8,099人、さらに、2055年度には、約45%減少し、5,115人まで減少すると推計されており、小規模化に進んでいくことが予想されています。</p> <p>学校が小規模化することによる課題としては、「集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少なる。」ことや「人間関係や相互の評価が固定されやすい。」などの課題が挙げられています。こうした状況から、教育委員会では、少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて、学校規模の適正化を進めることが必要であると考えまして、平成30年11月に「熊谷市立学校の適正な規模に関する基本方針」を策定しました。</p> <p>基本方針では、規模の適正化を図るための推進方策として、「学校の統廃合等」を進め、統廃合を進めるに当たっては、保護者や地域住民の方に対し、趣旨や実施方法等について説明し、御意見をお聞きしながら進めることとしています。また、基本方針では、学校統廃合等の検討の基準を定めています。右の表のとおりですが、小学校については、「学校規模の基準」は、12学級から18学級まで、つまりクラス替えが可能な1学年2学級以上が望ましい。「通</p>
-----	---

学距離の基準」は、概ね4キロ以内で、スクールバスの導入も検討しています。「学校統廃合等の基準」としては、小学校は、「複式学級」が見込まれる場合は、直ちに、検討する。また、「全学年で単学級」となることが見込まれる場合は、「児童数の動向に注視しつつ、検討することとしています。

以上を踏まえた上で、「公共施設の再編方針（案）」を作成しています。次のページをお願いします。公共施設のうち、学校施設については、ここに記載してあるとおりの4つの方針を掲げましたが、このページは、①の「学校の規模適正化に当たっては、小学校を優先するとともに、児童生徒数の少ない学校を優先して統廃合を検討する。」の部分について説明しています。

再編方針（案）では、星宮小と成田小の2校を統合して、規模適正化を図ることとしていますが、現時点で星宮小は、全ての学年で単学級となっていて、今後は複式学級になることも見込まれています。児童数は、右下のグラフのように推計していますが、この推計値は熊谷市全体の減少率を使って推計していますので、星宮地区が更に早いスピードで減少することも見込まれています。

この2校の統合の方針としましては、2校を対等な関係として統合し、新たな学校として設置することとしています。設置場所については、児童数が多く、敷地面積も広い成田小学校で、2023年度からの供用開始を考えています。また、跡地については、地域拠点施設等への転用を含め、今後、検討していきたいと考えております。

次に、統合によるメリットですが、左下に書いてあるとおりの「多様な考えに触れ、集団の中でルールを学び、社会性を高めるとともに、より自らの個性や学力、体力を伸ばすことができる。」「新たな人間関係を構築する力を身につけ、人間関係の固定化を回避できる。」「児童生徒同士、教員との人間関係に配慮した学級編成ができる。」などのメリットが挙げられます。

最後になりますが、学校規模適正化に当たっては、「子供たちにとって何がベターなのか。」ということを一に考えました。子供たちの将来を見据えて、長い目で考えられる大人が、「子供たちにとって、より望ましい環境をつくり、適正規模の学校の中で学ばせて、その子の持っている力を伸ばしてあげる。」というのが大切ではないかと考えています。

5. 質疑・応答

市民

スクールバス運行の基準となる通学距離4kmとはどの位なのか？

市職員

統合した場合、星宮地区全域をバス通学とすることを想定しております。

市民

小学校統合となった場合、市の予算で記念碑の建立してほしい。

市職員

今後、学校や保護者、地域の皆様と相談しながら決定したいと考えていま

	す。
市民	通学路について、草が伸びて通行に危険を感じる箇所がある。通学路の安全性について、市でも良く考えてほしい。
市職員	通学路については、学校と保護者で協議のうえ決定しています。危険性がある箇所については、把握次第場所を確認し、所有者と調整するなど、必要な対応を行っています。
市民	通学先小学校を選択できるようになるという噂がある。
市職員	統合が決まった場合は、指定校変更もできるよう検討しています。但し、統合前の通学については、各世帯での対応をお願いします。
市民	施設再編に係るアンケートの対象件数・回答件数は？対象数を多くすべきである。
市職員	平成26年度実施アンケートでは3000人を対象とし、986人の回答がありました。平成29年度実施アンケートでは3300人を対象とし、782人の回答がありました。手法については引き続き検討したいと考えております。
市民	指定校変更について、エリア説明会の時の説明（指定校変更は不可）と違うようだが、どういうことか？
市職員	各説明会で皆様から御指摘・御要望を伺い、検討を開始いたしました。
市民	複式学級になると、教師の負担も大きくなり、子どもの満足な学習ができなくなる。複式学級が発生しないように早急な対応をしてもらいたい。
市職員	複式学級実施にあたっては、熊谷市として複式学級対応支援員等を配置する予定であり、学級担任の授業補助や子ども達への支援を行い、学力の維持に努めてまいります。
市民	小学校の統廃合が既定の計画だと思い込んでいる人が多い。
市職員	学校の統廃合を進めるにあたり、保護者や地域住民に対し、統廃合の趣旨等について説明し、御意見を尊重しながら進めることとしております。今後も保護者等を対象とした説明会を開催する等、丁寧に進めてまいります。

市民	<p>循環バスの運行に相当額の費用がかかっていると聞いた。市の補助金等で民間路線バスを復活できないか？また、路線バスとスクールバスの選択制にできないか？</p>
市職員	<p>路線バスの復活については困難と思われます。循環バスについては、市が、路線バス営業免許を持っている会社に委託をしています。今後、循環バス・スクールバスのルート等を検討していきます。</p>
市民	<p>2023年の星宮・成田小統合までのスケジュール等を知りたい。</p>
市職員	<p>今後、保護者等を対象とした説明会等を開催し、御意見を伺う機会を設けます。また、統合に向けた準備段階においては、学校に関わる具体的な内容（学校名や校章、校歌など）や子ども達の学用品等について、（仮称）新校設立検討委員会を立ち上げて、学校や保護者の皆様と協議しながら決定していくこととなります。</p>
市民	<p>小学校統廃合というのは大きな話だが、今まで話がなかった。代々、地域の人が小学校を中心として地域の伝統を守ってきた歴史がある。小規模であっても小学校を残してほしい。</p>
市民	<p>小学校がなくなると、地域の少子高齢化が益々進んでしまう。工業団地を誘致する等、若い人々が増えるような施策、市の財源を増やす施策に取り組んでほしい。</p>
市職員	<p>人口減少対策については、新幹線通学の補助や固定資産税の免除、三世代同居への補助金交付などのほか、若い世代を本市に呼ぶ込むために就労の場と産婦人科の確保が必要なため、企業誘致や事業支援を病院や農業法人にも拡大して取り組んでいます。また、こども医療費の高校生までの無料化も行っております。今後も積極的に取り組んでまいります。</p>
市民	<p>今回の説明会のように人が多く集まるのは難しいので、PTA 会長等の代表者を中心に学校統廃合に係る検討委員会を立ち上げる等の体制をつくるべき。</p>
市職員	<p>今日は、限られた時間の中のご意見・ご質問となり申し訳ございませんでした。ご意見やご質問については、次第の一番下にあります連絡先にお電話またはメールにてお聞かせください。本日はありがとうございました。</p>